

学校だより



春里



平成28年度 3月1日号

学校教育目標

「生きる力」の育成

【目指す生徒像】

- ・笑顔で元気にあいさつする生徒
- ・礼儀正しく、仲良く助け合う温かい心の生徒
- ・進んで学習し、運動を好む生徒
- ・自ら考え、夢を持って行動する生徒

さいたま市立春里中学校

桜咲く

校長 松井秀史

日差しはぬくもりを増して春はもうすぐそこに来ていると感じさせてくれます。平成28年度がもうすぐ終わろうとしています。何かやり残したことがあるのではないかと気ばかり焦ってしまう毎日です。今年度も春里中生は素晴らしい力を発揮してくれました。校庭では桜咲く準備が始まっているようです。

ソメイヨシノ

先日2月23日に発表されました「2017桜開花予想」によりますと今年では東京では3月25日に、熊谷では27日に開花だそうです。もちろんここで言う「桜」は「染井吉野(ソメイヨシノ)」という品種の桜です。染井吉野は日本各地に植えられている代表的な桜です。江戸末期に染井村(現東京都豊島区)の植木屋が作り出した品種だそうです。全国にある染井吉野は、一本の原木から接ぎ木や挿し木で増やしたもので、そのため、同じ条件で一斉に咲き出し、お花見や観測に適しているのだそうです。その美しさは世界でも認められているほどです。本校の校庭南側の桜も今年もきれいに咲いてくれると期待していますが、樹齢70年近くとなり倒木の恐れもあるとのこと。そろそろ植え替えの必要があるようです。計画的に進めていきたいと考えています。

アメリカの桜まつり



明治の終わりごろ日本に来て桜を見たことのあるアメリカ人学者や作家たちの間で、日本の桜を讃える声があがったようで、当時の大統領夫人もこれに賛同し、それを聞いた日本政府は桜の苗木を二千本アメリカへ送ったそうです。しかし、ワシントンに到着したころにはおびただしい数の害虫が発生し、すべて焼却処分となってしまったのだそうです。再び計画を進めるために農学博

士に害虫に強い桜の苗木の研究を依頼し、明治43年に再び出荷されたのだそうです。日米親善の証であるこの桜が現在も毎年見事に咲き誇り、ワシントンのボトマック公園では「桜まつり」が行われにぎわっているそうです。

ハナミズキ

日米親善の交流はさらに続き、大正4年にアメリカから桜のお礼として「ハナミズキ」が日本に届けられたそうです。花ことばは「返礼」と言われるハナミズキはそれまでは日本にはなかったもので、アメリカでは最も愛される樹木の一つのようです。

桜咲く「サクラサク」



「サクラサク」は、大学入試で合格を告げる電報の文句だった、というのは有名な話ですが、中学3年生の公立高等学校受験が3月2・3日に行われます。今まで努力を重ねて培ってきた実力を十分発揮してくれることを願っています。大切なことは「サクラサク」や「サクラチル」という結果ではなく、それまでの努力と結果に対するその後の取組です。まずは結果を恐れずに逃げることなく挑んで欲しいと思います。

ちょっと一言



たくさんの方々に支えていただき平成28年度をなんとか終わることができそうです。ありがとうございました。これからも、地域から信頼される春里中でいられるようによろしくお願いいたします。寒い日が続いておりますが、寒風の中で元気に飛び回ることも健康維持には大切です。この寒い時期を乗り越え、丈夫な体を作るように学校でも指導しておりますので、ご家庭でのご指導もよろしくお願いいたします。